

令和7年度 一般社団法人青森県私立幼稚園連合会第2回定時総会議事録

日 時 令和8年3月17日(金)
13:30~15:00
場 所 アピオあおもり 大研修室

司会 木村 雅大 総務委員長
(正会員数85出席正会員数36、委任状36で総会成立)

1. 開会のことば 副会長 平田 浩介
2. 会長あいさつ 会 長 山西 幸子
3. 議長選出 小林よう子 先生 (八戸小中野幼稚園園長)
4. 議事録署名人選出 關 洋子 先生
(幼保連携型認定こども園星美幼稚園園長)
板東 由桂 先生 (認定こども園東雲幼稚園教頭)

5. 議事

- (1) 令和8年度事業計画案について、①令和8年度事業計画案は木村総務委員長から資料に沿って説明があった。各委員会の事業計画については各委員長から説明があった。

総務委員会 (木村総務委員長)

概ね例年通り実施していきたい。特に一番の諸会議の開催、運営については、規定また事業計画で承認されればその通り開催しながら、より実りのある会議にして事業の充実と財政の改善を図ってまいりたい。3番目の広報活動についても、より強化して行って私立幼稚園の存在感をよりアピールできるように考えていきたい。関係団体との連絡、調整もより連携を密にして効率の良い運営を目指していきたい。

教研委員会 (岡本教研委員長)

次年度の研修会として5月30日、アピオあおもりで乳幼児保育研究会の内容は「徹底的愛着を考える」ということでしてみたい。教員研修大会は9月4日5日の八戸大会と併催で、多数の先生方にご尽力いただき成功へと導きたいと思っている。新規教員採用研修は6月6日弘前市で一講座は茶道を通して「心を育てる」。もう一つの講座は弘前公園が近いので樹木医の先生方に植物のことをお聞きするという予定です。キャリアアップ研修会については、11月28日で調整しているが、美術的な、家政大学のアトリエスタ、デザイナーの先生をお呼びしてデザイン面から考えていくということで、保育をデザインしていきたい。また、本年度に引き続き研究調査活動。そしてECEQ®実施への支援、地区会研究活動の推進をしてまいりたい。

振興・経営委員会（平田振興・経営委員長）

例年とほぼ変わらずの活動になっていくと思う。2番の私立幼稚園補助金の増額運動と方策の検討については、物価高騰が続き園経営の方もかなり厳しくなっていると思うので、県や各行政、自治体に向けて現状を伝え、対応していただくよう陳情などを行って行きたい。また、今年も、認定こども園委員会と共に、アンケート調査も行い、それを元に知事、県の方に援助を訴えていきたい。やはり経営がかなり圧迫しているので、振興もそうだが、少しでも子どもたちのためにいい環境を構築していくためにも、そういった補助金等必要になってくると思うので、園経営、子ども達のために振興委員会、がんばっていききたい。

認定こども園委員会（田頭認定こども園委員長）

昨年とほぼ事業内容は同じ形でいきたい。2番の新制度についての内容について、新制度と言われて10年近くがたっているなかで、来年度に向けて減算がだいぶ増えてきている。今まではどちらかというに加算があったが、減算についても皆さんとしっかり情報を共有しながら、情報提供をしながらなんとか持続可能な園経営をしていきたい。誰でも通園制度が始まるが、公定価格に位置づけられていて、これもちゃんとした公定価格としての助成金というか、給付になるのでそのあたりのこともしっかり学んでいきたい。後は振興・経営委員会とのアンケート調査、皆様からのご協力があってこそ我々のエビデンスが図れるので、これからもご協力をお願いしたい。後は研修会の開催、それから全日の認定こども園委員会との勉強会からいろいろ情報をいただけたらと思うし、我々も認定こども園委員会の研修会などにも参加しながら、また皆様にシェアできるものがあたらせていただきたいと思います。

②令和8年度運営方針案については、山西会長から内容的には令和7年度と大きく変わるころはないが、少々取り上げているものが異なっているので、先に開かれました理事会において、多少の修正を加えてここに提示させているとの説明があった。（P2～4 承認）

（2）令和8年度予算案については木村総務委員長からまず①令和8年度会費案について、かねてから説明しているとおおり、この連合会の財政状況がこのままでいくと財政的に非常に厳しい状況を迎えることがほぼ確実だということから、会費について検討を重ねて、また先生方にもお示ししながら意見を募ってきた経緯があり、それが下段の令和8年度改訂会費案である。

基本会費については現行に5,000円をプラス、規模によって分けて会費を設定しているので、それぞれ5,000円上げさせていただきたい。また、園児割会費を現行から500円上げて一人1,500円というふうにさせていただきたい。暮れにご意見をいただきたいと募ってきたところこれに対する反対等、意見はなかったと認識しているので、これでよければ大変申し訳ないが、収入増のためにご協力いただきたいと考えているとの説明があった。

②令和8年度予算案について

木村総務委員長から、会費を変えることによって収入増が見込まれる。運営引当金取崩収入は今年度予算としては160万円を計上してなんとか収支のバランスをもたせるというつもりでい

たが、来年度については収入でほぼ同額の増が見込まれますので、ここで引当金の取り崩しはゼロ円としている。支出の面でも令和7年度に比べて支出を削減する計画となっていて、運営に支障なく経費を削減して引当金を取り崩すことなくやっていけるというような構造になっている。この決算については正式に閉じた後、5月の総会で改めて、結果を説明をさせていただくが、もう3月なのでほぼこれで終わることになるかと思うとの説明があった。

山西会長から補足として、分担金8年度の予算として1,771,200円とあるが、適用欄には東北地区会、全日私幼連、そして機構賛助会員と3項目がある。東北地区会は東北6県の各県がこの分を出し合い東北地区の設置者・園長研や東北地区教員研修大会の時等の費用となる。全日私幼連は園数と園児数によって全日の方に納めているが、もう一つ、今までになかった機構賛助会員1万円とある。今皆様が青森県私立幼稚園連合会または各地区の研修を受講する際の「ゆたかなまナビ」のナビシステムは、研修を受けた履歴がこのナビのところにすべて網羅されているというシステムで、これは一般財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構が運営している。機構は今一般財団法人から令和9年度に向けて公益財団法人になることを目指している。公益法人になるためには運営がきちりと整っていなければいけない。利用する個人個人のしっかりとしたシステムを構築して運営しているわけですから、個人の皆様から賛助会員として利用料的なものを徴収したいという意見が出ていたが、なかなか全国の意見をまとめるのが時間がかかりいろいろと計算を重ねて現在の結論が資料5です。(添付資料5)

賛助会員Aというのは、個人の一人一人の先生方のこと。賛助会員Bというのは幼稚園、1園1園の幼稚園を指す。賛助会員C会員というのは、これは例えば青森県私立幼稚園連合会といったような、都道府県の団体を指している。賛助会員Dというのがこれが全日本私立幼稚園連合会ということになる。結論から申し上げて私共青森県私立幼稚園連合会は年間10,000円を負担する。そして連合会に加盟している幼稚園は年間200円を負担する。そして幼稚園のナビシステムに履歴を登録されている先生方は200円を負担する。

これは先だつての全日本私立幼稚園連合会での団体長会で可決された案件で、私もそこに青森県の代表として出ているが、県の研修をするにあたっては非常に便利にナビのシステムを利用させていただいているので、県としても年間で10,000円の負担は妥当だろうと考え賛成させていただいた。幼稚園にしても、200円であればなんとかお願いしたい、また各個人の先生も200円であればということです。その幼稚園や先生方からの集金の仕方については、今、全国のご意見をまとめて機構の方でどのように投げ掛けるのがいいのかということで検討を進めており、秋ぐらいにはこのようにして納めて下さいということで、お願いが出ると思うので、その時にはご協力をお願い申し上げます。それで、ここに予算書として10,000円を掲げさせていただいたということです。よくわからないということがあったら、いつでも結構ですのでどうぞお知らせくださればご説明申し上げたいとの補足説明があった。

続いて木村総務委員長から先の子算案について、追加として7頁の決算見込みのところ116万円のプラスというふうに申し上げたが、これは100万円以上の黒字だということではなく、繰越金が984,966円があって116万の残が残ったということで、ほぼとんとんで終わりそうだ

いうことをご理解ください。そのために取崩をせざるを得なかったということをご理解いただければと思う。また協賛金収入とあるが、これ2～3年前から始めている要覧への広告収入で引き続きご協力いただき、35万円あつまったが予算は70万ということで、目標の半分であったという見方もできる。ここも是非とも各園で取引業者とかありましたら、お声がけいただいで協賛収入を少しでも多くしていただければと思っている。

繰り返しになるが、来年度予算については経費削減をいろんなところでしていきたいので、いろんなアイデアを是非先生方からも出していただいで、例えば今日もホテル青森で今までやっていたが、アピオあおもりでやっているというところもひとつの削減の手立てでござるので、ご理解いただければと思うとの説明があった。

その後、フロアから（一財）機構の賛助会員の金額についての確認があり、山西会長からの説明の後、（2）令和8年度予算案について承認された。（P5～7）

（3）令和8年度第40回東北地区私立幼稚園教員研修大会（八戸大会）について

岡本教研委員長から資料の第一次案内について説明があり、第二次案内は5月末に発行予定だが、今までは紙ベースだったが、各県の団体事務局に送ってから各園に配布するので、この度東北の団体長会議でも、もう全部メールで配信したほうがコスト的にも、また時間も短縮されるということで出来上がり次第全てメールで送らせていただく。

こども家庭庁も量よりも質ということにシフトしていて、質となれば評価ということ間違いない。いやいやながら行く研修会ではなくて、皆で学び合えるようにして考えていきたいとの説明があった。（承認 P8—資料1）

以上をもって議事を終了した。

6. その他

添付資料2-1	251011	OECDティーチング・コンパス	1枚概要
	2-2	学校評価としてのECEQ®	岡本教研委員長から説明
添付資料3		弘前地区園長視察研修	平田副会長から説明
添付資料4		令和7年度青森県食育推進会議報告	吉田理事から説明

以上をもって、すべて終了した。

7. 閉会のことば

副会長 平田 浩介

議長

小林 よろ子



議事録署名人

板東 由桂



議事録署名人

關 洋子

